

寒川町史編集委員会次第

日時:令和 7 年(2025)12月17日(水)

10時00分～

会場:寒川町役場議会第1会議室

1 議事録承認委員の選出

2 議題

(1)『寒川町史研究』第 37 号について〈資料1〉

(2)編集委員による座談会について〈資料2〉

(3)『寒川町史研究』の刊行計画について 〈資料3〉

3 その他

寒川町史編集委員会委員名簿

氏 名	委 嘱 期 間	備 考
うつ み 海 たかし 孝	令和6年12月20日～令和9年12月19日	東京外国語大学名誉教授
まつ おか 松 岡 たかし 俊	令和6年12月20日～令和9年12月19日	産業能率大学教授

寒川文書館職員

職	氏名
館 長	い とつ まさ はる 伊 藤 正 治
主 査	ひら お なお き 平 尾 直 樹
主任主事 (再任用)	たか き ひで 彰 高 木 秀 彰
資料取扱専門員	とり かい ます み 鳥 養 圭 美
資料取扱専門員	とみ た けん じ 富 田 健 司

〈資料1〉

『寒川町史研究』第37号について

1. 誌面構成

(1) 展示記録

富田健司「学校日誌からみる戦時下の寒川」

(2) インタビュー記録

高木秀彰「寒川町立青年学校の七年間 <中嶋良さんインタビュー>」

(3) 業務記録

平尾直樹「寒川町史編さん事業の収集資料について」

(4) その他

- ・寒川町史年表稿(令和7年=2025)
- ・既刊刊行物一覧
- ・文書館関係者名簿
- ・あとがき
- ・表紙解説・奥付

2. 刊行スケジュール

- ・2月上旬…入稿
- ・2月中旬～3月中旬… 校正・校了
- ・3月中旬～下旬…納品・発送

〈資料2〉

編集委員による座談会について

1. 座談会の目的

(1)内容

- ・町史編さん事業の記録化
- ・町史編編さん事業の振り返り
- ・今後の編さん事業への展望

(2)参加者

元委員	圭室 文雄 氏 大口 勇次郎 氏 鳥養 直樹 氏 鈴木 保彦 氏
現委員	内海 孝 氏 松岡 俊 氏

2. 実施時期についてのこれまでの検討

(1)2025年8月6日の寒川町史編集委員会において内海委員長より提案

- ・座談会実施時期…2025年度
- ・町史研究掲載号…未定

(2)事務局案

- ・座談会実施時期…2026年度
- ・町史研究掲載号…2026年度

(3)事務局案に対する内海委員長案

- ・座談会実施時期…2025年度圭室先生から聞き取り、2026年度座談会
- ・町史研究掲載号…未定

(4)圭室文雄元委員にご相談した際のご意見

- ・座談会実施時期…2026年度
- ・町史研究掲載号…未定

3. 実施予定の座談会

- ◆座談会実施時期…2026年度
- ◆町史研究掲載号…2026年度
- ※2026年度予算要求中

4. 確認事項

(1)開催時期について

(2)元編集委員への依頼方法について

〈資料3〉

『寒川町史研究』の刊行計画について

1. 提案内容

現在の文書館の体制で『町史研究』の内容の充実をはかり、かつ『町史研究』を継続して刊行していくために、隔年刊行というスタイルに変更することを提案する。

2. 『町史研究』を刊行する目的

調査・研究の成果を公表すること。⇒(文書館の設置目的)地域文化の発展に寄与する。

3. 現在の課題

毎年度、『町史研究』を刊行すること自体が目的化しているという側面がある。

※調査研究の成果の公表 < 毎年度刊行

4. 課題の要因

(1)文書館の他の業務との兼ね合いで調査・研究に十分な時間を割くことができない。

※文書館事務分掌(「寒川町事務分掌等に関する規則」第8条第2項)

2 文書館における事務分掌は、次のとおりとする。

- (1) 文書館の運営に関すること。
- (2) 歴史的又は文化的価値を有する町の公文書の移管、保存、活用及び研究に関すること。
- (3) 民間所在資料の調査、収集、保存、活用及び研究に関すること。
- (4) 行政刊行物の収集、保存及び活用に関すること。
- (5) 町史編さんに関すること。
- (6) 文書館内の庶務に関すること。

(2)重点課題

- ◆保存期間満了後の文書の選別収集および公開等に関する例規の整備
 - ・選別基準を策定する(今年度)。
 - ・移管規定、公開のルールなどを整備していく方針を検討する。
- ◆選別・収集した公文書の目録(公開用)を作成する。
- ◆民間資料の整理・公開作業を行う。

2025年度文書館スケジュール

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

文書館の運営に関すること。

運営審議会	←準備→ 第1回会議	←準備→ 第2回会議
来館者対応		

歴史的又は文化的価値を有する町の公文書の移管、保存、活用及び研究に関すること

公文書の収集	撤入	←デジタル文書選別運用方針の検討→	←デジタル文書選別→	←紙文書選別→
目録作成				
例規の整備				

民間所在資料の調査、収集、保存、活用及び研究に関すること

資料整理				
企画展	←準備作業→	企画展開始		
ミニ展示			第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	ミニ展示開始
古文書講座				
燻蒸		←対象資料選定・準備→		

行政刊行物の収集、保存及び活用に関すること

図書登録				
蔵書点検				

町史編さんに関すること

町史編集委員会	←準備→ 第1回会議	←準備→ 第2回会議	
『町史研究』37	←構成案の作成→		←編集・発送作業→
刊行物の在庫管理			

文書館内の庶務に関すること

文書館資料管理検索システム・図書館システムの保守	会議	会議	会議	会議
図書館連携		←準備→ 図書館まつり		

5. 提案(変更点)

(1)変更点

令和9(2027)年度以降『町史研究』を隔年刊行とする。

※『町史研究』と『調査報告書』などの刊行物を、年度ごとに交互に刊行することも含めて検討する(刊行計画の策定)。

(2)変更する理由

- ◆誌面構成の検討に十分な時間を割くことができる。
- ◆依頼原稿(1年1本×2年)の活用することもできる。
- ◆2年計画で調査・研究を行い、その成果を掲載することができる。

【編集1年目】

- (7月頃)編集委員会1回目 ……構想報告
- (2月頃)編集委員会2回目 ……誌面構成の検討(経過報告)

【編集2年目】

- (7月頃)編集委員会3回目 ……誌面構成確定
- (11月頃)編集委員会4回目 ……誌面完成・次号構想報告(依頼原稿の検討など)

(3)効果

調査・研究の成果を公表する媒体として機能する。=地域文化の発展に寄与する。